



開成町子ども読書活動のアンケート結果をお知らせします。

開成町子ども読書活動推進委員会

令和3年9月に、小学2年生2校205名、5年生196名、中学2年生165名を対象として、読書活動に関するアンケートを行いました。結果がまとまりましたので、お知らせします。

なお、今年度のアンケートは、小学2年生と5年生・中学2年生の内容を分けています。

※「本を読むこと」とは、歴史マンガ・学習マンガや電子ブックなどを読むことを含む

設問1 読書は、好きですか。

	小2	小5	中2
1. 好き	56.5	50.8	41.0
2. どちらかというとき好き	28.5	39.7	37.3
3. どちらかというとき嫌い	8.3	7.0	14.9
4. 嫌い	6.7	2.5	6.8

昨年度は6割以上の子どもたちが「読書が好き」と回答していましたが、今年度は、「どちらかというとき好き」と「好き」を合わせると、小学生で87.2%、中学2年生は78.3%となっています。文部科学省の最新調査の全国平均が小学生73.3%、中学生が67.3%ですから、開成町はかなり高いといえます。これは、ブックスタートの取組や幼稚園・保育園での読み聞かせ活動により、本に興味を持つ場が用意されていることや、小中学校で朝読書を行い、本に親しむ機会を積極的に設けていることの影響が大きいものと思われます。一方で、「どちらかというとき嫌い」「嫌い」もいます。このことについては、設問4で考えたいと思います。

設問2 本を読むのはどうしてですか。

(いくつでも○をつけてもよいです。嫌いと答えた人もつけましょう。)

	小2	小5	中2
1 面白いから	30.5	34.7	43.8
2 ためになるから	16.6	19.6	16.5
3 知らなかったことが分かる、新しい発見がある	23.7	22.3	16.8
4 何か調べたいから	14.3	10.2	8.1
5 友達が読むから、友達にすすめられた	3.5	7.3	8.1
6 先生や家の人にすすめられたから	7.0	4.6	5.7
7 先生や家の人にほめられるから	4.5	1.3	1.0

本を読む理由は様々ですが、「面白いから」と「友達が読むから、友達にすすめられたから」が学年が上がるにつれ伸びています。

学校で読む機会が増えていて、友達が読むので、いっしょに読んだり、面白い本を紹介し合ったりする楽しさや良さを感じられます。

設問 3 1 か月で何冊本を読みますか。

	小2	小5	中2
1 読まない(0冊)	8.5	4.5	13.0
2 1～2冊	22.9	16.2	38.5
3 3～4冊	10.6	29.3	27.3
4 5～9冊	20.2	21.2	9.3
5 10～19冊	14.9	19.2	6.8
6 20冊以上	22.9	9.6	5.0

【参考資料】2021年(令和3年)
学校読書調査(全国学校図書館協議会調べ)

<全国の1か月に1冊も読まない子どもの割合>

- 小学生 5.5%
- 中学生 10.1%
- 高校生 49.8%

不読率

今回、6項目にわたって小学校2年生と5年生、中学2年生に回答してもらいました。全国の小学生の不読率は5.5%ですので、5年生はそれと比べると、一冊も読んでいない子は少ないといえます。2年生は読まない子が8.5%いますが、20冊以上読んでいる子が最も多いことから、読書好きな子が多いことが分かります。また、中学生は全国レベル(10.1%)をやや下回っています。学校段階が進むにつれて不読率が高くなっています。

設問 4 問3で0冊だった人に聞きます。本を読まないのは、どうしてですか。(いくつでも)

	小2	小5	中2
1 読みたい本がない	13.8	35.7	21.9
2 本を読む時間がない	10.3	7.1	12.5
3 本を読むのが好きではない	13.8	14.3	25.0
4 外で遊びたい	6.9	14.3	3.1
5 習い事に行く	17.2	14.3	18.8
6 テレビゲームの方が面白い	37.9	14.3	18.8

本を読む時間がないのは、塾やスポーツ関係の習い事に通っていることが関係しているようです。また、SNSやテレビゲームの方が面白いため、時間がないとしている子もいるようです。

「本を読むのが好きではない」ことの原因になるのが、小さいころ読み聞かせの機会が少なかったり、楽しく本を読める読書環境になかったりしたことがコメントから考えられます。また、中学生では、自分から進んで本を選ぶのではなく、大人からの強制力が働いてしまうことが本を好きではなくなった理由になっています。読むことに苦痛が伴うと、本を読むことが好きではなくなります。

設問 5

問3で1冊以上読む人に聞きます。

(1) どんな本を読んでいますか。

高学年になるにしたがって物語が多くなっています。また、アニメなどのマンガは年々種類も増え、映画のヒット作品もあり、それらの影響で人気があるようです。

	小2	小5	中2
1 絵本や童話	13.1	6.6	2.1
2 物語	16.0	26.7	41.9
3 伝記	3.1	9.9	6.5
4 生活の本	5.3	2.3	2.7
5 科学の本	7.3	6.0	2.7
6 スポーツ、音楽、図画工作、料理の本	7.3	6.2	5.2
7 図鑑	14.0	8.4	4.1
8 学習マンガ	12.6	11.1	4.8
9 アニメなどのマンガ	21.3	22.6	29.9

(2) 読みたい本をどのようにさがしますか。(いくつでも)

	小2	小5	中2	8 その他(主なもの) ・学校の図書室や学級文庫 ・作者や見出しで決める ・本屋でさがす ・教科書に載っている本 ・本の予告 ・司書さんに聞く ・ジャンルごとにさがす
1 自分でさがす	53.3	49.5	21.3	
2 友だちに聞く	17.2	10.9	6.3	
3 家の人に聞く	13.1	13.7	3.6	
4 先生に聞く	10.6	1.5	0.5	
5 町民センター図書室の人に聞く	5.8	4.9	0.5	
6 新聞や雑誌、テレビなどで紹介された本を選ぶ		5.8	52.8	
7 インターネットでさがす		13.7	15.0	

小学生は、「自分でさがす」が多かったのですが、その中で図書室や学級文庫でさがす子やお店でさがす子がいたので、アンケート項目を精選すればよかったと考えています。

中学生になると、新聞や雑誌、テレビやインターネットなどの情報をもとに、本をさがしていることが分かりました。

(3) どこで本を読みますか(いくつでも)

	小2	小5	中2	5 その他(主なもの) ・学童(小2) ・電車の中(小5・中2) ・車やバスの中(小5・中2) ・本屋
1 学校	57.0	43.7	46.3	
2 家	17.8	47.8	47.0	
3 図書室	14.0	5.8	3.7	
4 町民センター図書室	11.2	2.7	3.0	

全体的には、学校や家で読書する子が多いです。小学2年生は学童で読書をし、小学5年生や中学2年生は塾や習い事に行く往復の電車や車の中で読んでいます。中には、電子書籍を読んでいる子もいます。図書室や町民センター図書室は、小学2年生が多く利用しています。

(4) 読みたい本をどのように手に入れますか。(いくつでも)

	小2	小5	中2	8 その他(主なもの) ・学童で借りる ・ほかの市町の図書館で ・学級文庫 ・家の人に借りる ・家庭用学習教材で(小2) ・フリマアプリで(中2) ・リサイクルショップで(中2)
1 家の人と本屋で買う	35.1	33.7	20.6	
2 自分で本屋で買う	5.3	15.4	37.5	
3 インターネットを選ぶ	4.2	7.5	12.4	
4 学校の図書室で借りる	34.3	23.1	7.3	
5 町民センター図書室で借りる	13.2	11.1	7.9	
6 友だちから借りる	4.8	5.7	6.7	
7 スマホやタブレットなどで直接読む	3.1	3.6	7.6	

「本屋で買う」は、高い割合ですが、インターネットで選んだり、電子書籍を直接読んだりする子も年々多くなっています。小学生は学校やセンターの図書室で借りている子もいますが、年齢が高くなると、利用する子どもが少なくなっていることが分かります。

設問 6 平日(月曜日から金曜日)に、10 分以上読書をしますか。

【平成 30 年全国学力・学習状況調査より】

	小学生	中学生
開成町	63.4	55.1
神奈川県	65.2	46.4
全 国	66.2	53.5

【H27～R 元年の 5 年間の全国学力・学習状況調査の平均を教育委員会事務局で計算】

	小学生	中学生
開成町	63.04	58.0
神奈川県	63.0	45.7
全国	64.6	51.4

【令和 3 年 9 月アンケート結果より・開成町】

	小 2	小 5	中 2
10 分以上する	61.7	85.9	79.0

この設問は、過去の神奈川県と全国のデータがありますので、新たに取り上げてみました。

平成 30 年の状況ですが、「全国学力・学習状況調査」をもとに、開成町と県・全国を比べてみました。平成 30 年の小学生は神奈川県や全国と比べると、10 分以上読書している子の割合は低いことが分かります。一方、中学生は、県と全国よりも上回っています。

さらに、直近の 5 年間の平均を比較しても、県・国を毎年上回っていることが分かりました。小学生の 5 年間の平均は、県平均をわずかに上回っていました。

平均を比べてきましたが、令和 3 年は左のように小学 5 年生が高く、2 年生が相対的に低い結果となりました。今年の 5 年生と中学 2 年生は全国的にも、非常に高い値を示していることが分かります。

設問 7 休日に(土曜日・日曜日・祝日)に、10 分以上読書をしますか。

	小 5	中 2
10 分以上する	68.8	45.7

理由は、はっきりとはしませんが、平日と比べ、休日の読書の時間は少ないことが分かりました。

設問 8 学校の図書室を利用しますか。

	小2	小5	中2
1 利用する	84.0	80.8	12.6

小学生の 80%以上が利用しています。中学生は 10%台にとどまっています。

設問 9 「利用する」と答えた人に聞きます。

(1) 1 週間にどのくらい利用しますか。

	小2	小5	中2
1 1回	50.0	67.7	79.2
2 2回	36.4	24.7	12.5
3 3回以上	13.6	7.6	8.3

どの学年でも、1 週間に 1 回が多く、回数が増えるほど、少なくなっています。小学 2 年生は、一冊のページ数が少なかったり、絵本を読んだりするため、利用回数が多いと考えられます。

設問 9 (2) 図書室を利用する目的は何ですか (いくつでも)

	小2	小5	中2	4 その他(主なもの) ・新しい本があるかもしれないから ・放送で紹介された本が見たい ・静かなところで人が少ないから ・委員会活動で使う
1 本をかりるため	50.0	38.2	37.5	
2 本を読むため	36.4	38.2	37.5	
3 調べ学習をするため	13.6	23.5	25.0	

子どもたちが図書室に行く主な目的は、「本をかりるため」や「本を読むため」です。そのきっかけを作るために、その他にあるように、「静かなこと」や「放送で紹介すること」、「新しい本を準備すること」は、とても重要である指摘のように思います。

「調べ学習をするため」は、学年が進むにつれ、増えています。社会科や理科・総合的な学習の時間などで、子どもたちの問題解決の資料に使われている機会が増えるに伴い利用されていると考えられます。

補足資料

教育委員会では、毎年、各学校で図書個人カードをもとに調査した学校図書室の利用状況をまとめています。

① 年間貸出数

※開成町教育委員会調べ (単位: 冊)

	H28	H29	H30	R 元	R2
小学生	32,167	32,944	39,492	38,939	32,168
中学生	723	1,430	1,533	1,771	699

② 一人当たりの貸出数

※開成町教育委員会調べ (単位: 冊)

	H28	H29	H30	R 元	R2
小学生	30.1	30.3	36.3	35.1	28.2
中学生	1.4	2.7	3.0	3.5	1.4

③ 年間貸出数 0 冊の子の割合

※開成町教育委員会調べ (単位: %)

	H28	H29	H30	R 元	R2
小学生	5.0	4.0	0.8	1.9	6.9
中学生	79.4	76.0	73.9	59.1	82.9

中学生は、10 分以上読書をする子の割合が全国的にも高いことが分かりました。

一方で、学校図書室の利用は少ない状況にあります。しかし、年間貸出数、一人当たりの貸出数が伸び、貸出数 0 冊の生徒が減っています。小学生は、図書室の利用率や貸出数等も高く、ほとんどの子が本を借りていることが分かります。

各学校の様々な取組の成果が表れているといえましょう。

※令和 2 年度は感染症対策により、臨時休業や昼休みの短縮、貸出時間の短縮などの影響が大きく表れています。

設問 10 問 8 で「利用しない」と答えた人に聞きます。利用しない理由は何ですか。（いくつでも）

	小2	小5	中2	8 その他(主なもの) ・本が家にあるから ・外で遊ぶから ・めんどう ・自分で買いたいから ・借りても読まないで返してしまうから
1 読みたい本がないから	38.5	42.9	24.7	
2 図書室があいていないから(開放時間が少ない)	12.8	17.9	5.7	
3 図書室が遠いから	7.7	3.6	14.5	
4 新しい本が少ないから	5.1	7.1	4.8	
5 本のえらび方が分からないから	7.7	5.4	2.6	
6 図書室に行く時間がないから	20.5	7.1	37.9	
7 本を読むのが好きではないから	7.7	16.1	9.7	

この設問は、小2で32人(205人中)、小5で37人(196人中)、中2は127人(165人中)の学校図書室を利用しない人に聞いた結果です。小学生は「読みたい本がないから」が最も多い理由になっています。図書室があいていなかったり、あいている時間が少なかったりすることも理由になっています。また、2年生では、本を読むより外で遊んだほうが楽しいという回答もありました。中学生で最も多いのは、図書室に行く時間がないという理由でした。

設問 11 学校の図書室にしてほしいことは何ですか。

	小2	小5	中2
1 今までどおりでよい	14.5	22.5	36.0
2 本の種類をふやしてほしい	24.8	32.6	30.1
3 かりられる日数を長くして	15.6	16.7	5.9
4 おすすめの本を教えて	9.7	6.9	5.4
5 本のさがし方や図書室の使い方を教えて	3.6	0.7	1.6
6 いつも本のことや調べ物について教えてくれる人がいてほしい	3.9	2.5	2.2
7 どこにどの本があるのかを分かりやすくしてほしい	12.3	12.0	12.9
8 ゆっくり読める場所がほしい	15.6	6.2	5.9

9 その他 ※小学生からの要望を小、中学生からは中、両方からは全としました。

- ・アニメを入れてほしい(7名・全)
- ・学習マンガを増やして(小)
- ・リクエストをしてほしい(小)
- ・図書室をいつでも開いてほしい(中)
- ・ゆっくり読めるようにしたい(小)
- ・最近のものを増やして(中)
- ・正しく学べる本を教えて(小)
- ・SCPの本がほしい(小)
- ・図書室に行かなくても本を探せるようにしてほしい(中)
- ・広くして(中)

設問 10 と、この設問は、どの子にも、本好きな子になってほしいという願いがあることが前提になっています。そのためには、子どもたちの考えることを具体的に把握し、特に利用しない子の立場に立って考えようとしたものです。様々な要望がありますが、「本の種類を増やしてほしい」「アニメをふやしてほしい」という本の内容の他に、本の展示の方法や貸し出し日数などの図書室の運営についての要望がありました。

設問 12 この 1 年間に町民センター図書室に行ったことがありますか。

	小2	小5	中2
1 ある	40.2	34.5	23.3

小学 2 年生は 40% の子どもたちが行っていますが、学年が進むにつれて少なくなっています。

設問 13 問 12 で「ある」と答えた人に聞きます。町民センター図書室にどのくらい行きますか。

	小2	小5	中2
1 ほとんど毎日	8.1	0.0	3.0
2 週に1回くらい	23.0	12.1	6.1
3 2週間に1回くらい	8.1	9.1	3.0
4 1か月に1回くらい	14.9	34.8	21.2
5 1年に何回か	45.9	43.9	66.7

6 その他

- ・3 か月に 1 回
- ・4 か月に 1 回
- ・年に 1 回

小 2 でほとんど毎日町民センターを利用している子は、1 年間に利用したことがある人 40.2%（設問 12）の 8.1% となりますので、人数に直すと、7 人となります。

町民センター図書室に 1 か月に 1 回以上行く 2 年生は 45 人、全体の 22% です。5 年生は 22 人、全体の 11.2% で、中学 2 年生になると 13 人で全体の 7.8% です。

令和 3 年は、コロナ禍でもあり、例年と比べると町民センターを利用する回数が大幅に減りました。

参考資料

学校図書館や地域の図書館に月 1 回以上行く児童・生徒の割合

※文科省「全国学力・学習状況調査」（単位：％）

		H27	H28	H29	H30	R 元
小学生	開成町	32.6	33.5	34.3	設問なし	57.2
	神奈川県	29.5	30.9	29.4		31.3
	全 国	40.7	40.3	38.6		40.5
中学生	開成町	16.9	6.2	11.1	設問なし	14.6
	神奈川県	13.9	14.3	15.1		15.7
	全 国	19.6	18.6	19.4		20.4

年間貸出冊数

※町民センター図書室調べ（単位：冊）

	H27	H28	H29	H30	R 元
小 学 生	4,488	3,948	3,832	4,472	4,230
中 学 生	659	399	377	347	362

設問 14 町民センター図書室では、開成小と開成南小のおすすめの本のコーナーを作ったり、夏休みの課題図書コーナーを作ったりしていたのを知っていますか。

	小2	小5	中2
1 知っている	18.7	15.3	22.3

センター図書室では、学校と連携しながら、各校のおすすめの本のコーナーを作っています。アンケート結果をみてみますと、より

いっそうの周知が必要だと思われます。学校では①学校にない本がセンターにはたくさんあること ②学校で薦めている本が学校にはないが、センターにある場合の紹介 ③令和4年1月に「キッズライブラリー」がオープンすること等を知らせること。センター側では、学校のおすすめの本のコーナーがあることなどを広報や町のホームページに掲載することなどが挙げられます。

センターでは、令和4年1月に「キッズライブラリー」がオープンします。そこには、児童向けの本がたくさん入る予定です。センター図書室では、それをきっかけに利用が増えるようパンフレットの配架などの取組を進めようとしています。

設問 15 町民センターにしてほしいことは何ですか。(いくつでも)

	小2	小5	中2
1 今までどおりでよい	14.5	24.6	42.9
2 本の種類(しゅるい)をふやしてほしい	24.8	18.8	20.3
3 かしだし期間(きかん)を長くして	15.6	6.7	5.2
4 おすすめの本を教えて	9.7	4.8	3.3
5 本のさがし方や図書室の使い方を教えて	3.6	2.2	2.4
6 本のことや調べ物について相談にのってほしい	3.9	1.3	1.9
7 DVDなどをかすコーナーをつくってほしい		20.4	15.1
8 どこにどの本があるのかを分かりやすくしてほしい	12.3	6.1	3.8
9 楽しいイベントなどをしてほしい		15.0	5.2
10 その他 ・アニメマンガを増やしてほしい(8人) ・広くきれいにしてほしい(3人) ・最近の本を入れて(2人) ・リクエストを取ってほしい ・ジョジョシリーズがほしい ・センターに行く道が暗くて怖い ・行ったことがないので分からない(8人)			

この設問も設問 11 と同じように、どの子にも、本好きな子になってほしいという願いがあることが前提になっています。様々な要望がありますが、「本の種類やアニメを増やしてほしい」は、学校図書室への要望と共通しています。DVDなどを貸すコーナーや楽しいイベントへの要望が多くなっています。

「センターに行く道が怖い」という記述については、何らかの対応が望まれます。

設問 16 開成町の「ファミリー読書デー」について聞きます。

(1) 開成町のファミリー読書デーは、いつか知っていますか。

※令和 2 年度と令和 3 年度の「知っている子の割合」(単位：%)

	小 2	小 5	中 2
令和 2 年度	9.6	12.3	15.4
令和 3 年度	18.7	35.2	23.1

ファミリー読書デーの取組については、町民カレンダーの毎月 1 日の枠への記載や、毎年ファミリー読書デーのポスターを募集するなど、周知を図ってきました。

しかし、どの学年も昨年度より「知っている」状況は高くなったものの「知らない」割合が圧倒的に高いことが分かります。

子どもが本と出会い、本の楽しさを知るためには、家庭の役割が大変重要です。家庭で子どもといっしょに本を読んだり、図書館に出かけたりすることが、その後の子どもの読書習慣に大きな影響を与えるとともに、家族間のコミュニケーションを深めることにもつながっていきます。そのためにも、ファミリー読書デーの取組を知ってもらい、子どもたちが積極的に動き出すことが重要です。

(2) ファミリー読書デーには、家族みんなで本を読もうという運動をしていますが、さく年のアンケートでは、ファミリー読書デーに、何かの取組をしているという家がとても少なかったです。あなたは、どうしたらよいと思いますか。(いくつでも)

※この設問は、小 5 と中 2 を対象にしています。

(単位:%)

	小 5	中 2
1 ファミリー読書デーには、学校や町民センター図書室から一人一冊本をかりて家に持っていく	31.8	20.7
2 家族みんなで、本を読もうと声をかけ合う	20.4	23.2
3 学校の帰りの会で「今日はファミリー読書の日です」と日直や図書係が声をかける	24.1	21.2
4 ポスターの募集に参加する	6.2	13.1
5 自分が好きな本を家族や友だちに教える時間をつくる	17.5	21.7
6 その他 【積極的・肯定的意見】 ・給食時間などに校内放送でファミリー読書デーであることを知らせる。 ・ファミリー読書デーの日に本の良さを伝える。 ・町コミで、「ファミリー読書デー」であることを当日流す。 ・ポスターを作る。 ・イベントをする。 ・兄弟で本屋に行く。 ・もっと広く本の紹介をする。 ・毎週、キャンペーンをする。	【消極的・否定的意見】 ・自由がいい ・ファミリー読書をする必要を感じない。 ・時間とかが無理なので、仕方がない。 ・あまり意識できない。 ・強制的にすると、いやになる。	

1 ファミリー読書デーが始まった背景

県教育委員会では、いじめや暴力行為等の未然防止を目的として、PTA・学校・行政機関・企業が連携して「もっと、話そうよ。大切な家族だから。」というキャッチフレーズのもと、家庭でのコミュニケーションを大切にし、子どもたちが自分の気持ちを素直に表現する力や相手を思いやる気持ちを育む「ファミリー・コミュニケーション運動」を毎月第1日曜日にあて、推進してきました。「ファミリー読書デー」もそれに沿った形で毎月第1日曜日としました。

開成町では、毎月1日を「ファミリー読書デー」として、読書を通して家族のコミュニケーションを深めることを目的としています。

2 ファミリー読書デーに関する各団体の取組

- ① 教育委員会…ファミリー読書デーを周知するためのポスターの募集
- ② 子育て健康課…ブックスタート事業に合わせて乳幼児の保護者に対してパンフレットを配布し、啓発
- ③ 保育園・幼稚園…園だよりで、毎月1日がファミリー読書デーであることや読み聞かせの大切さ等を周知・啓発
- ④ 学校…学校だよりで周知
- ⑤ 社会福祉協議会…社会福祉協議会の広報によるファミリー読書デーの周知と読書の呼びかけ
- ⑥ センター図書室…センター図書室のホームページや町の広報にて周知
- ⑦ 町企画政策課…関係団体と協力しながら広報によるファミリー読書デーの紹介

このように、さまざまな団体でファミリー読書デーについての取組はなされているのですが、なかなか浸透していきません。設問16での回答で見られるように、小2で約80%、小5で65%、中2は77%の子が「毎月1日が開成町ファミリー読書デーであること」を知らない状況でした。

そこで、ファミリー読書デーの日を知ってもらうのと同時に、当日にどのような活動ができるのかを子どもたちに考えてほしい、子どもたちに積極的に動いてほしいという願いを込めてこの設問をしてみました。

どうしたらよいかという問いかけに、「給食時間の放送を利用してファミリー読書デーであることを呼びかける」という回答がありました。本来、放送することは子どもは大好きです。図書委員会の子どもたちが中心になって放送するという企画になれば、夢中になって様々な声掛けをするのではないのでしょうか。ファミリー読書の意義にふれることも大切です。また、アンケート結果を紹介し、「今日は、ファミリー読書の日です。一人一冊図書室やセンターに行って本を借りて読みましょう」という呼びかけをすることなどは十分可能だと思います。そのほかの意見も十分話し合い、クラスや学校にあった方法を子どもたちの手で決めていくことが重要です。

2年生のみのアンケート内容です

設問 14 「どくしょつうちょう」について聞きます。

(1) 1 作った 2 作らなかった

1	作った	49.2
2	作らなかった	50.8

「どくしょつうちょう」は、原則 1 年生に「作り方」といっしょに配付しています。2 年生は主に昨年のことを思い出しながら回答しています。



この設問は、毎年 1 年生全員に配付している「どくしょつうちょう」がどのように活用されているのかを調べるために設定をしました。

昨年初めて「作り方の説明書」を添えて配付しましたが、それに沿って作れば、2 分程度で完成するものです。

設問 14 (1) によると、およそ半分がどくしょつうちょうを作っていませんでした。つまり、昨年度は半分の家庭で利用していないことが分かりました。

(2) 「どくしょつうちょう」を作って利用した人のきもちを教えてください。(単位:%)

1「どくしょつうちょう」の作り方の「せつめいしょ」があったのでよかった	23.4
2 作り方や使い方を先生や家の人にくわしく教えてもらったので楽しく使えた	40.3
3 本を20冊読んで本の名前を表に書く「ひょうしょうじょう」に書いてもらえらることになっていたが、もう少しがんばりたかった	19.5
4 めんどくさかったので、読んだ本の名前を全部書けなかった	16.9
5 その他 ・めんどくさかった ・忘れていた ・時間がなくてやらなかった ・使っていない ・作ったけれどやらなかった ・本を読む場所がたくさんあってよかった ・もっと読みたい ・ひょうしょうじょうに書いてもらってうれしかった	

「作り方や使い方を先生や家の人から教えてもらったので楽しく使えた」が 40% でした。しかし、作った人の 40% なので、2 年生全体 205 人のうちの 45 人 (19.5%) です。その他の中にも、「めんどくさかった」とか「時間がない」「作ったけれどやらなかった」などがあり、有効に活用できていなかったようです。

令和 3 年度は、学校は教育委員会と連携を図りながら、担任による声掛けやシール等の手立てを行ったり、夏の課題といっしょに紹介したりした結果、「つうちょう」の追加数が昨年より大幅に増えました。

どくしょつうちょうの課題

令和3年のどくしょつうちょうへの取組は、追加をした子が59人、最多利用冊数が5冊の子がいました。これは、学校の指導の表れだと思います。

しかし、よりよく利用してもらうための課題として、①1年生が読んだ本の名前を記録するページをもう一方のページに貼らなくてはいけないという操作が難しいのではないか、②日頃忙しい保護者にとって、説明書を読み、つうちょうを完成させなくてはいけないという煩わしさが「つうちょうを作らない」ことにつながったのではないかと考えました。

どくしょつうちょうの来年度以降の取組

各小学校に取組の様子を聞き、来年度以降の見通しやどくしょつうちょうの電子化等についてアンケートをしたところ、次のような回答が寄せられました。

- ▼ 本人が記入し、日付を書いて、シールや担任印を押した。それくらいであれば、負担なく続けられると思う。電子化は図書室のデータとリンクしたり、本人がタブレットで入力したり、ミライシード等を用いて家庭で入力するのがよいと思う。ただ、そうになると、担任が把握するのは難しくなる。
- ▼ 1年生が従来のように一覧表に自分で書いていくこと自体が難しいことかもしれない。家庭に協力をいただくことになると、コロナ禍の中忙しい家庭は厳しいかもしれない。1年生でなく、2年生の方がよいのかもしれない。
- ▼ 「読んだら自主的に書く」というのは、低学年の児童全員に徹底するというのは難しいが、今年度と同数程度なら、来年度の児童も行えると思う。少しでも、ハードルを下げるなら、組立て不要のカード式が良いかと思う。

子どもたちや教員のアンケートをもとに、来年度は、子どもたちや保護者が取り組みやすいように組立て式ではなく、表紙や形式は替えずに、カード式にすることにします。詳細については、もうしばらく時間をかけて検討し、その結果を来年度の「どくしょつうちょう」に反映していきます。

小学5年生・中学2年生のみのアンケート内容です。

設問 17 読書は、みんなの心をゆたかにするものです。多くの本を楽しむためには、
どのようにすればよいと思いますか。 (単位:%)

	小 5	中 2
1 小さいころから読み聞かせなどをして本の楽しさを教える	25.7	24.9
2 小さいころから図書室や本やなどに行く	14.1	14.0
3 家族で読書に親しむ	16.2	12.3
4 学校で読書の時間を決める	10.8	16.5
5 図書室を利用しやすくする。	13.0	13.7
6 学校でボランティアの人たちが読み聞かせをする	5.4	4.6
7 図書委員会が朝会などで本の紹介をする	9.5	4.9
8 自分にあつた読書のめあてを決める	5.4	9.1
9 その他 ・毎日読むようにする ・小さいころから本屋に行く ・好きな作家を見つける ・好きな本を見つける ・マンガが欲しい ・いろいろな人に合う本を入れる ・読みたい本がいつでも読めるようにしておく ・本を買って与える		

この設問は、子どもたちにどのようにしたら本好きの人になれるかという思いを込めて聞いてみた内容です。

「小さいころから読み聞かせなどをして本の楽しさを教える」や「小さいころから図書室や本屋になどに行く」項目が多いのは、家庭や園・低学年の時の心地よい読み聞かせなどの経験があるからだと考えられます。改めて、家庭での読書習慣の大切さが分かります。

「学校で読書の時間を決める」は、学校が朝読書や帰りの読書など、時間を設定することにより、読書せざるを得ない場を作る中で、好きな本を読めることも本が好きになるきっかけになるといえます。また、中学生になると、自分に合った読書のめあてを決め、好きな作家や好きなシリーズ本などを見つけることも楽しむことにつながるようです。

設問 18 電子書せきを使って読書をする人に聞きます。どのくらい電子書せきを使って読書をしますか。 (単位:%)

	小 5	中 2
1 たまに電子書せきを使って読書をします	93.8	86.0
2 読書は、ほとんど電子書せきです	6.2	14.0
3 その他 ・マンガは電子書せき、小説は紙の本を読む。		

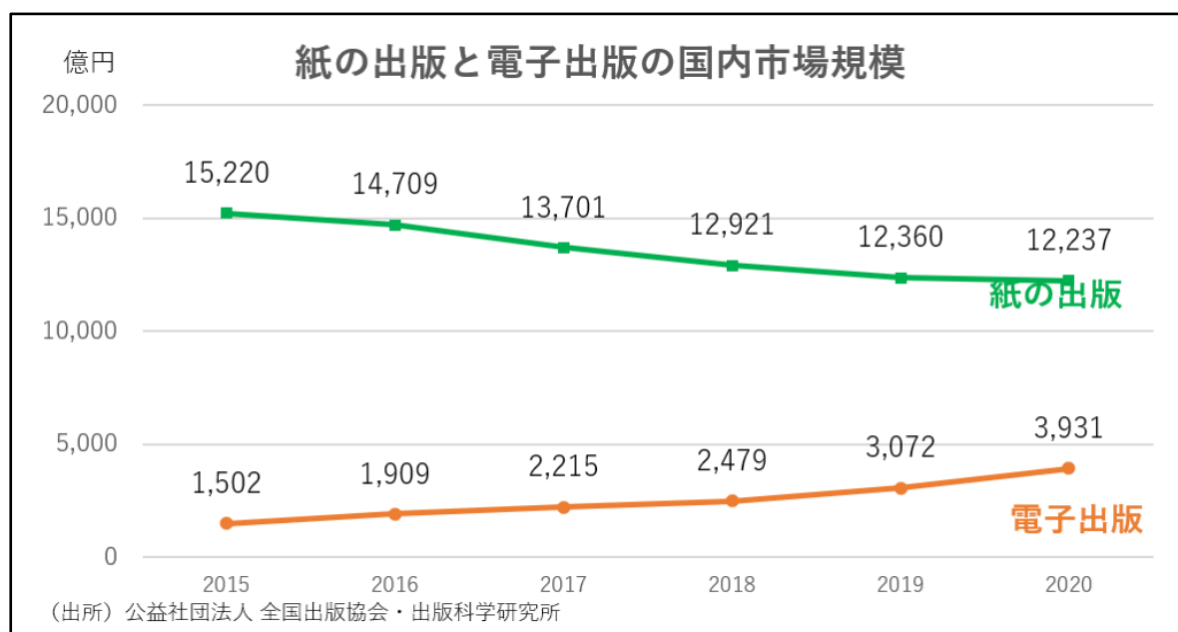
小学5年生は全体の24%、
中学2年生は全体の33%が電子書籍を使って読書をしています。

左の表は、その中での使い方の割合を表しています。

この設問は、電子書籍を使って読書をしている人に限って聞いたものです。令和元年には、「読書はほとんど電子書せきです」と答えた人は一人もいませんでした。わずか二年で5年生が6.2%、中学2年生が14%に達しています。一人一台タブレットが配付されたことやスマホの普及などが影響していると考えられます。

調べ学習も含めて考えると、電子書籍は、これから先、ますます使う頻度が増えていくことでしょう。次に電子書籍（電子出版）の全国的な普及率を調べてみました。

【参考】



電子出版の市場規模を全国出版協会の統計データから調べてみました。

2020年（令和2年）時点では、電子出版は紙の出版の1/3くらいの市場規模であることがわかります。一方で、紙の出版の市場規模が減少を続けているのに対し、電子出版の市場規模は毎年成長しており、2015年から2.6倍になったことも読み取れます。

電子書籍は、当然ながらインターネットとスマホの存在が欠かせません。どこでもインターネットがつながり、いつでもスマホでアクセスできる環境が整ったことが、電子書籍普及の一番の理由だといえます。

設問 19 あなたにとって、紙の本と電子書せきを比べると、どちらが身近だと思いますか。

	小5	中2
1 紙の本	93.8	74.7
2 電子書せき	6.2	25.3

小学生と比べると、中学生は電子書籍は身近な存在です。設定18の参考資料のようにこれからますます電子書籍が増えていくと考えられます。

設問 20 設問 19 で選んだ答えの理由を簡単に書いてください。

【小学 5 年生】

紙の本が身近

- ・紙は、目が悪くならない
- ・学校も図書室もみんな紙だから
- ・読み終えた達成感がある
- ・電子書せきを使ったことがない

電子書籍が身近

- ・置き場所に困らない
- ・すぐに読める
- ・借りたり買ったりしなくてもすむ
- ・検索が簡単

【中学 2 年生】

紙の本が身近

- ・電子書せきは、学校に持っていけない
- ・めくったり集めたりするのが楽しい
- ・読み終えた達成感がある
- ・目に優しい
- ・学校や家にたくさんある
- ・昔から親しんでいる

電子書籍が身近

- ・スマホがあれば簡単
- ・手軽でスペースを取らない
- ・本は買ったり、借りたりが面倒
- ・調べるのが楽

電子書籍が利用されている現状を見てきましたが、将来的に、電子書籍は増え、子どもたちも使う機会が増えることが考えられます。アンケートにあるように紙の良さもあり、電子書籍の良さもあることがわかりました。

どちらが良いということではなく、それぞれの良さを生かした使い方が大切にされなくてはならないと思います。

まとめ

1 読書好きな子の育成

各設問に対するコメントで、おおよそのことはふれていきますので、詳しくは省略しますが、開成町の小中学生は、読書好きな子どもたちが多くなってきている現状があることがわかりました。

そこにあるのは、小学校入学以前の手厚い読書活動への取組です。

- ①子育て健康課が学校教育課と連携をとりながら行っているブックスタート事業
- ②町民センター図書室が子育て健康課と連携して取り組んでいる「読書活動スタートアップ」
- ③保育園や幼稚園における、ほぼ毎日の「読み聞かせ」や「ペープサート」等の取組
- ④社会福祉協議会による「おはなし会」
- ⑤各団体が保護者や地域に向けて、読書の重要性を発信し、広報をしていること

これらの取組が基礎にあり、それに加えて小学校の読書タイムの充実や学校司書による図書室環境の整備、そして図書委員会の子どもたちの活動がありました。また、中学校のGoTo 図書室キャンペーンやPOPの作成などの工夫した取組があり、県や国の平均をしのご読書好きな子どもが育ってきたのだと思います。

2 これからの方向性

(1) ファミリー読書の推進

子ども読書活動推進委員会の話し合いの中で、乳幼児を対象にした子育て健康課や町民センターの取組や社会福祉協議会、幼稚園・保育園の取組の中では、「ファミリー読書デー」に特化することなく、多くの家庭で、普段から「ファミリー読書」を行っていることが分かってきました。

一方で、小中学生を対象にしたアンケートでは、毎月1日を「ファミリー読書デー」とし、様々な取組がなされてきましたが、なかなか浸透してこなかったという反省がありました。

そこで、前述したように、子どもたちにどのようにしたらよいのかを聞いたところ、具体的な取組が提案されました。学校を中心とした取組が効果的であることは「どくしょつうちょうの課題」でも述べました。子ども読書活動推進委員会でも、そのことの重要性については共通理解ができました。

今後、ファミリー読書デーの認知度を高め、そのことがきっかけで、子どもたちが積極的に学校や家庭に働きかけるような環境作りが大切です。

(2) 各団体間の連携

各団体のつながりを深いものにすることが読書の成果を上げることにつながります。

① 学校と学校教育課

学校教育課作成の「ファミリー読書デーのポスター」の紹介ポスターの小学校での掲示と、出品証の配付

学校教育課では、出品者数の増加がファミリー読書への関心につながると考え、小学校図書担当と連携し取り組みました。小学校では、図書室の前に掲示し、啓発に努めました。

本来の目的は、ポスターを描くことではなく、家族で様々な読書を楽しむことにあるのですが、今年度は全ての出品者がポスターに掲載されることで、家庭でも大きな話題となったようです。

② 学校と町民センター図書室との情報交換による共通理解

体験学習をしたり、小学校の課題図書等を町民センターで紹介したりしました

町民センターでは、小学生が窓口カウンターに立ち、貸し出し等の体験を楽しく行いました。小学校の課題図書等の紹介については、来年度、より一層きめ細かい情報交換をすることで、子どもたちが活用できるように努めます。

③ 子育て健康課と学校教育課による絵本の配付

7～8 か月児健康相談の際に、対象保護者に絵本を配付しています。

④ 子育て健康課と町民センター図書室による推薦図書の紹介リーフレットの作成

⑤ ボランティアによる各学校への読み聞かせ

(3) 電子書籍について

アンケートにも電子書籍のことを取り上げましたが、メリットとデメリットについて簡単にふれてみたいと思います。指導者は、文献に当たって電子書籍について理解することが大切です。

メ リ ッ ト	デ メ リ ッ ト
手軽に購入できてすぐに読める	紙の書籍よりも種類が少ない。
かさばらないので、本棚等の管理する場所が不要	スマホやタブレットの電池がなくなると読めない
どこにでも持ち歩ける	自由に書き込んだりすることができない
データなので、劣化することがない	中古本のように下取りに出せない
水に濡れて破けたりしない	紙の質感が感じられず、サイズ感がわからない
紙の書籍より比較的安い	貸し借りできない
暗いところでも読むことができる	紙の書籍より目が疲れやすい

3 コロナ禍にあって

今年度も、前述のように感染症対応で、学校の図書室、町民センター図書室も利用することができない時期がありました。大勢が本を手にとり、楽しく読んだり、語り合ったりすることが難しい状況にありました。その影響がアンケートの結果に響いているのではないかと考えられます。

開成町では、第四次子ども読書活動推進計画が令和4年の4月から始まります。この計画の主旨は「社会の変化や発達段階などに即した読書計画」をキーワードとして、開成町のすべての子どもが、あらゆる機会と場所において、自ら進んで読書活動を楽しむことができ、豊かな心を持った子どもたちに育っていくよう、家庭、地域、園・学校と行政、それぞれが連携し合い、取り組んでいこうとするものです。

令和4年1月には町民センターに「キッズライブラリー」が開設され、子ども読書活動推進の一助になることが期待されます。

今年度、コロナ禍の中で、学校・園では、ソーシャルディスタンスを意識しながらの図書室の再開や各教室で貸し出しをするなどの工夫を重ねてきました。子育て健康課では、関連機関や講師と協働することで、妊娠期から乳幼児期にかけての読み聞かせの大切さを伝え、健診時に配付するリーフレットの見直しを行いました。教育委員会では、利用しやすいどくしょつうちょうを作るため、小学校職員にアンケートを出すなど、取組の見直しを図り、来年度より形を変えていきます。

しかし、それらの成果は、すぐに出るものではありません。「ていねいで地道な取組を継続することによって、読書好きな子どもたちが育つ」ことを信じて取り組むことが必要だと考えます。

読書は、言葉を通して思考力や表現力を養い、豊かな感性と創造力、コミュニケーション能力の基礎を養います。そのため、幼児期から、発達段階に応じた読書習慣を形成することが大切であることを改めて考えたいと思います。



【小学校】

ソーシャルディスタンスを意識しながら本の貸出を行っている図書委員



【中学校】

Go To 図書室キャンペーンで、図書委員が作成したスタンプカード